

2024年4月23日

### 2024年4～6月期 静岡県内主要産業四半期見通し調査

## 堅調な生産と価格転嫁の進展により、底堅い県内産業景気

静岡経済研究所（理事長 馬瀬和人）では、3月に実施した「静岡県内主要産業四半期見通し調査」の結果をとりまとめましたので、その内容をお知らせします。

#### 現況

- 県内産業の現況（2024年1～3月期）は、『順調』が「建設」「情報サービス」の2業種、『普通』が「製紙」「食品・飲料」「工作機械」「民生用電器部品」「自動車部品」「二輪車部品」「大型小売店」「自動車販売」「物流」「人材派遣」「観光・レジャー」「外食」の12業種となった。
- 『低調』は「住宅」の1業種で、『好調』および『不調』の業種はなかった。

#### 今後の見通し

- 2024年4～6月期の見通しについては、引き続き『好調』と『不調』の業種はなく、「自動車部品」が『普通』から一段階上昇して『順調』となるため、『順調』が3業種、『普通』が11業種、『低調』は1業種となる見通し。
- 実質賃金が伸び悩む中で個人消費に盛り上がりの欠ける状況が続いているが、生産活動が堅調な上、多くの業界では調達・仕入価格や人件費上昇に伴う価格転嫁が進みつつあり、県内産業景気は総じて底堅く推移している。
- 本調査と同時に実施した賃上げに関するアンケート調査によれば、県内企業の6割以上が今年度にベースアップを予定している。こうした所得環境改善の動きが個人消費の喚起や企業の生産活動の活発化などにつながることを期待される。

業種	業界天気	
	現況 (1-3月)	見通し (4-6月)
製紙		
食品・飲料		
工作機械		
民生用電器部品		
自動車部品		
二輪車部品		
建設		
住宅		
大型小売店		
自動車販売		
物流		
情報サービス		
人材派遣		
観光・レジャー		
外食		

※本件のお問合せ先 担当 川島、須藤

〈5月の記者発表予告〉下記の調査について記者発表を予定しています

「2024年 ゴールデンウィーク集客動向調査」  
「静岡県内企業 夏のボーナス予想」  
「静岡県版 景気ウォッチャー調査（2024年4月）」

## 堅調な生産と価格転嫁の進展により、底堅い県内産業景気

### 業界景気の現況（2024年1～3月期）

県内産業の現況（2024年1～3月期）は、『順調』が「建設」「情報サービス」の2業種、『普通』が「製紙」「食品・飲料」「工作機械」「民生用電器部品」「自動車部品」「二輪車部品」「大型小売店」「自動車販売」「物流」「人材派遣」「観光・レジャー」「外食」の12業種、『低調』が「住宅」の1業種で、『好調』および『不調』の業種はなかった。

### 業界景気の見通し（2024年4～6月期）

4～6月期の見通しについては、引き続き『好調』と『不調』の業種はなく、「自動車部品」が『普通』から一段階上昇して『順調』となるため、『順調』が3業種、『普通』が11業種、『低調』は1業種となる見通し。実質賃金が伸び悩む中で個人消費に盛り上がりの欠ける状況が続いているが、生産活動が堅調な上、多くの業界では調達・仕入価格や人件費上昇に伴う価格転嫁が進みつつあり、県内産業景気は総じて底堅く推移している。

業種ごとにみると、製造業では、主力の「自動車部品」が『普通』から『順調』に上昇。全国的には一部のメーカーの認証不正問題の影響で生産水準が低下しているが、県内では部品調達が正常化する中、堅調な需要に支えられ操業度が高まりそうで、部品生産量も前年を上回るとみられる。また、内外需とも前年割れが続くものの底打ち感がみられる「工作機械」、家庭用エアコンの在庫調整が進み、生産増に向かう「民生用電器部品」、海外需要は堅調ながら人気モデルに一服感がみられる「二輪車部品」は『普通』のまま推移する見込み。そのほか、値上げ前の駆け込み需要に対応して生産量を増やす「製紙」、価格改定が浸透し売上増加を見通す食品や外出機会の増加による需要増を期待する飲料を含む「食品・飲料」も『普通』のまま推移するとみられる。

非製造業では、減災に向けたインフラ整備や民間の設備投資が堅調な「建設」、IT人材不足に悩みながらもシステム開発受注が好調な「情報サービス」が『順調』を維持する見通し。嗜好品需要の伸び悩みに直面しつつも単価上昇により売上増を見込む「大型小売店」、認証不正問題の余波で一部のディーラーで販売が低迷するも総じて需要が堅調な「自動車販売」、電気機械や食品関連が下支えする「物流」、観光・小売関連のほか一般事務需要も増加する「人材派遣」、浜名湖花博の集客に期待がかかる「観光・レジャー」、歓迎会やイベントの正常化に伴い売上回復が見込まれる「外食」は、引き続き『普通』となりそうである。一方、「住宅」については、物価高や建設価格の上昇を受けて顧客の購入意欲が低下しており、収益環境の悪化も懸念されるため、『低調』から脱し切れない模様。

2024年4～6月期 静岡県内主要産業四半期見通し調査一覧表

業種	業界天気		売上高 (前年同期比伸び率)	主要産業の見通し
	現況 (1-3月)	見通し (4-6月)		
製紙		→ 	➔	価格改定と駆け込み需要の発生で、売上増加見込み
食品・飲料		→ 	➔	食料缶メーカーの売上は、販売単価の上昇で前年比増
工作機械		→ 	➡	内外需ともに底打ち感がみられるが、本格回復は夏場以降を見込む
民生用電器部品		→ 	➡	家庭用エアコンの在庫調整進み、出荷台数は前年比プラス
自動車部品		→ 	➔	認証不正の影響は限定的、県内の部品生産量は前年を上回る
二輪車部品		→ 	➡	人気のアドベンチャーモデルの需要に一服感、生産は前年比減
建設		→ 	➔	減災に向けたインフラ整備や民間の設備投資が続き、堅調に推移
住宅		→ 	➡	着工戸数は減少傾向、建設コスト上昇が利益を圧迫
大型小売店		→ 	➡	販売単価の上昇でスーパーは微増、百貨店は前年並みにとどまる
自動車販売		→ 	➡	需要は堅調だが、認証不正の余波で販売台数は横ばい
物流		→ 	➡	電気機械や食品関連が下支えし、輸送量は前年並み
情報サービス		→ 	➔	システム開発受注が好調な中、IT人材不足が重石
人材派遣		→ 	➡	観光・小売関連は底堅く推移、一般事務需要も増加
観光・レジャー		→ 	➔	浜名湖花博の集客に期待がかかるが、大幅増には至らず
外食		→ 	➔	歓迎会・イベントの正常化や公的支援により、外食気運が高まる

表の見方

業界天気				売上高	
	好調		低調	➔	非常に増加(+10%以上)
	順調		不調	➔	増加(+3~+9%)
	普通			➡	横ばい(+2~△2%)
				➡	減少(△3~△9%)
				➡	非常に減少(△10%以上)

静岡県内主要産業四半期見通し調査「現況」推移

年次	2021年			2022年				2023年				2024年	
四半期	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	
対象月 (○は調査月)	4~⑥	7~⑨	10~⑫	1~③	4~⑥	7~⑨	10~⑫	1~③	4~⑥	7~⑨	10~⑫	1~③	
全業種の平均階級値	2.53	2.40	2.60	2.67	2.53	2.80	2.93	2.93	3.00	3.13	3.07	3.07	
好調：5													
順調：4													
普通：3													
低調：2													
不調：1													
業 種 数	好調	0	0	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0
	順調	3	2	1	2	1	2	2	3	4	3	2	2
	普通	4	4	5	3	3	5	7	8	7	11	12	12
	低調	6	7	7	9	10	7	5	4	4	1	1	1
	不調	2	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0

注1) 「業界景気の現況」および「業界景気の見通し」は、対象企業経営者が業界景気動向をどうみているかを調査したもの。調査は、毎年3、6、9、12月に実施。「業界景気の現況」とは、調査時点(3月調査であれば1~3月期)における業況、「業界景気の見通し」とは、調査時点における翌期(3月調査であれば4~6月期)の見通しを示す。

注2) 調査方法は、アンケート調査とヒアリング調査による。アンケート調査の概要は以下の通り。  
 調査時点…2024年3月上旬  
 回答企業…県内主要15業種(162社)

注3) 平均階級値は、好調：5、順調：4、普通：3、低調：2、不調：1とする、15業種の平均値。

各業種および表の見方

### 製紙 価格改定と駆け込み需要の発生で、売上増加見込み

【現況】

【見通し】

【4-6月期売上高】

前年同期比 1-3月期比

**現況**

【1-3月期】家庭紙の生産量は、前年を上回った模様。メーカー各社は駆け込み需要をやり下回ったものの、電気機器向けなどが振るわなかった。

**見通し**

【4-6月期】家庭紙は、価格改定前の仮需の積み増しもあり、生産量は前年をやや上回る見通し。ただし、店頭・家庭内には反動減が生じる懸念があり、メーカー各社は春季での段ボール製品の価格改定を予定しており、買い控え等も予想され、生産量は前年をやや下回る見通し。

国内紙・板紙生産量 (前年比) (%)

資料：経済産業省

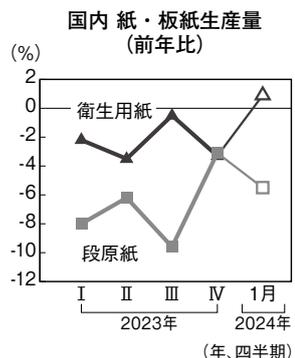
操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
90%以上	非常に需要超過	非常に過少	非常に上昇	非常に上昇	カ月
89~80%	需要超過	過少	上昇	上昇	
79~70%	均衡	適正	横ばい	横ばい	
69~60%	供給超過	過多	下降	下降	
59%以下	非常に供給超過	非常に過多	非常に下降	非常に下降	

# 主要業種景況見通し

## 製紙 価格改定と駆け込み需要の発生で、売上増加見込み

**【1-3月期】** 家庭紙の生産量は、前年を上回った模様。メーカー各社が4月以降の価格改定を表明しており、駆け込み需要が発生した。段ボール原紙の生産量は、前年をやや下回ったとみられる。主力の食品向けは底堅かったものの、電気機器向けなどが振るわなかった。

**【4-6月期】** 家庭紙は、価格改定前の仮需の積み増しもあり、生産量は前年をやや上回る見通し。ただし、店頭・家庭内在庫の増加により、値上げ浸透後には反動減が生じる懸念がある。段ボール原紙は、メーカー各社が春季での段ボール製品の価格改定を予定しており、買い控え等も予想され、生産量は前年をやや下回る見通し。



国内紙・板紙生産量(前年比)

年	1月	2月
2023年	II	III
2024年	IV	1月

資料：経済産業省

**【4-6月期売上高】**

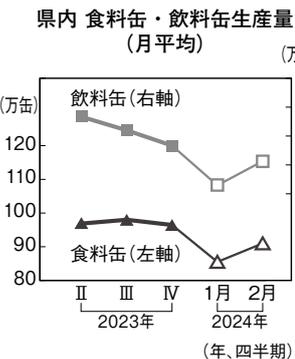
前年同期比	1-3月期比
→	→

操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
90%以上	均衡	適正	横ばい	上昇	0.1~1.0ヵ月

## 食品・飲料/製茶 食料缶メーカーの売上は、販売単価の上昇で前年比増

**【1-3月期】** 食品・飲料：県内食料缶メーカーの売上高は、前年をわずかに上回った。生産量は前年を下回ったものの、価格改定により販売単価が上昇した。飲料缶類の生産量は、受注が堅調で前年と同水準で推移した。製茶：製茶問屋の売上高は、前年をやや下回った。

**【4-6月期】** 食品・飲料：県内食料缶メーカーの売上高は、販売単価の上昇により前年をやや上回る見通し。原燃料価格の上昇で、収益は悪化する見込み。飲料缶類の生産量も、外出機会の増加で前年実績を上回る見通し。製茶：製茶問屋の売上高は、輸出向けが堅調な一方、専門店や量販店向けが低調で前年を下回ると予想される。



県内食料缶・飲料缶生産量(月平均)

年	1月	2月
2023年	II	III
2024年	IV	1月

資料：(一社)静岡缶詰協会

**【4-6月期売上高】**

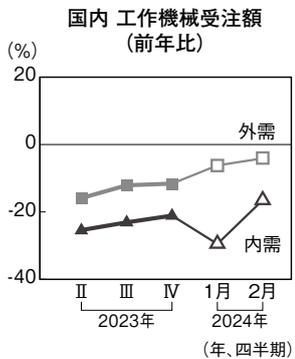
前年同期比	1-3月期比
→	→

操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
90%以上	均衡	適正	上昇	上昇	0.1~1.0ヵ月

## 工作機械 内外需ともに底打ち感がみられるが、本格回復は夏場以降を見込む

**【1-3月期】** 全国および県内の受注額は、高水準だった前年を大きく下回った。全国は、14ヵ月連続で前年割れだが、好不調の目安となる1千億円/月は上回り、需要の底堅さを示した。県内は、国内自動車向けや半導体向けが低調で、受注確保に苦戦するメーカーが多くみられた。

**【4-6月期】** 全国および県内の受注額は、引き続き前年を下回るが、一定水準は確保する見通し。国内外で設備投資意欲は根強く、内外需ともに底を打つとみられる。一方で、世界的なインフレ再燃や景気後退への警戒は絶えず、ユーザー企業は設備投資に慎重な姿勢が続くと予想される。本格的な受注回復は夏場以降になる見込み。



国内工作機械受注額(前年比)

年	1月	2月
2023年	II	III
2024年	IV	1月

資料：(一社)日本工作機械工業会

**【4-6月期売上高】**

前年同期比	1-3月期比
↓	→

操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
89~80%	均衡	適正	上昇	横ばい	1.0~20.0ヵ月

## 民生用電器部品

### 家庭用エアコンの在庫調整進み、出荷台数は前年比プラス

【現況】



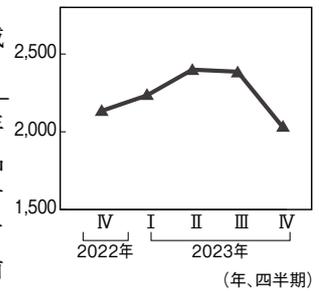
【見通し】



【1-3月期】県内の家庭用エアコンの出荷台数は、前年をやや下回って推移した。暖冬の影響で販売が伸び悩み、出荷台数は前年を割込んだ模様。業務用エアコンは、更新需要が一巡していることに加え、新規設置も減少していることから、前年実績を下回ったとみられる。

【4-6月期】県内の家庭用エアコンの出荷台数は、前年をやや上回る見通し。在庫が適正水準に戻り、完成品メーカーは積極的な計画を示しており、生産量は増加する見込み。業務用エアコンは、モデルチェンジを控えていることから生産が抑制されるとみられ、出荷台数は前年を下回る見通し。

国内 家庭用電気機器出荷額 (月平均) (億円)



資料：経済産業省

【4-6月期売上高】

前年同期比 1-3月期比



操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
89~80%	均衡	適正	横ばい	上昇	1.0~3.0ヵ月

## 自動車部品

### 認証不正の影響は限定的、県内の部品生産量は前年を上回る

【現況】



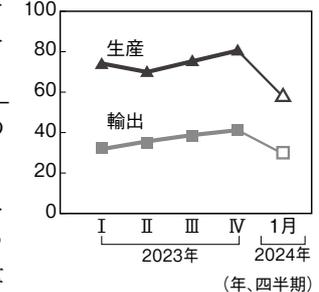
【見通し】



【1-3月期】全国の自動車生産台数は、ダイハツや豊田自動織機の認証不正問題で一部車種の生産が停止したほか、能登半島地震で部品調達に影響を受けた完成車メーカーもあり、前年を△1割強下回った。県内部品メーカーの生産量も、前年をやや下回って推移した模様。

【4-6月期】全国の自動車生産台数は、認証不正問題の影響で前年実績を△2~3%下回る見通し。ただし、トヨタ系列以外の完成車メーカーでは、底堅い需要に支えられて生産は堅調で、県内でも部品調達が正常化する中、操業度が高まるとみられる。部品メーカーの生産量も、県全体としては前年を上回る見通し。

国内 自動車生産・輸出台数 (月平均) (万台)



資料：(一社)日本自動車工業会

【4-6月期売上高】

前年同期比 1-3月期比



操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
90%以上	需要超過	適正	横ばい	上昇	0.5~2.0ヵ月

## 二輪車部品

### 人気のアドベンチャーモデルの需要に一服感、生産は前年比減

【現況】



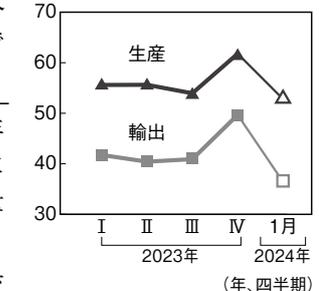
【見通し】



【1-3月期】1~3月の全国の完成車生産台数は、前年比横ばいで推移した模様。原付1種が大幅に減少したが、大型車の生産は底堅かった。ただし県内では、海外向けに余剰感が生じたことから完成車生産は抑制気味で推移、部品生産も伸びなかった。

【4-6月期】4~6月の全国の完成車生産台数は、前年を割り込む見通し。主力の大型車は、旺盛な海外需要に支えられて輸出用が堅調だが、キャンパーが好む積載量の多いアドベンチャータイプの需要に一服感がみられ、生産台数は前年に及ばないとみられる。これに伴い、県内部品メーカーの生産量は前年をやや下回る見込み。

国内 二輪車生産・輸出台数 (月平均) (千台)



資料：(一社)日本自動車工業会

【4-6月期売上高】

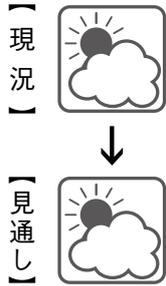
前年同期比 1-3月期比



操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
79~70%	供給過多	過多	横ばい	横ばい	1.0~2.0ヵ月

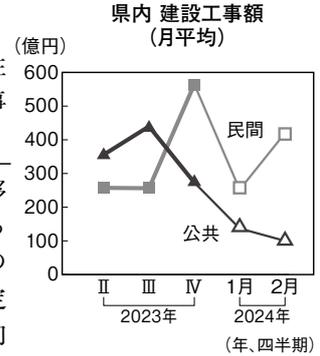
## 建設

### 減災に向けたインフラ整備や民間の設備投資が続き、堅調に推移



【1-3月期】1～3月の県内の公共工事契約高は、前年をやや下回った模様。国関係は前年をやや上回ったが、県交通基盤部からの発注が減少した県関係や、前年発注額が大きかった市町関係は前年を下回った。民間の工事費予定額は、製造業や運輸業を中心に前年を上回った。

【4-6月期】県内の公共工事契約高は、前年並みに推移する見通し。国関係で流域治水工事の発注が見込まれるほか、県、市町関係を中心に、災害復旧や減災のためのインフラ整備工事が続くとみられる。民間の工事費予定額は、製造業を中心に、工場や倉庫など供給力向上に向けた設備投資が進むとみられ、強含みで推移する見通し。



【4-6月期売上高】

前年同期比 1-3月期比



操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	工事単価	受注残
90%以上	需要超過	—	上昇	上昇	4.0~12.0ヵ月

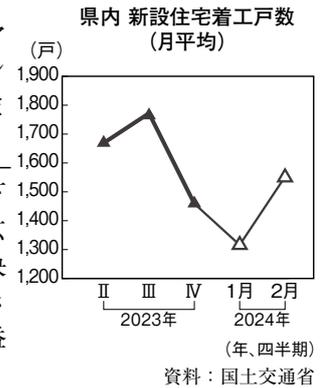
## 住宅

### 着工戸数は減少傾向、建設コスト上昇が利益を圧迫



【1-3月期】県内の新設住宅着工戸数は、前年をやや下回った模様。持家と貸家は前年並みだったが、分譲はマンション着工が堅調だった前年を下回った。住宅ローン金利の上昇気配は意識されているが、建物価格が高止まる中、顧客の購入意欲は上向かなかった。

【4-6月期】県内の新設住宅着工戸数は、前年をやや下回って推移する見通し。住宅ローン金利の先高観は広がっているものの、建設価格の割高感から顧客が購入決断に踏み切れない状況が続く。資材価格や人件費は引き続き上昇しそうだが、さらなる価格転嫁は難しく、収益的に厳しい状況が続く見通し。



【4-6月期売上高】

前年同期比 1-3月期比



操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	工事単価	受注残
79~70%	均衡	適正	上昇	上昇	1.0~6.0ヵ月

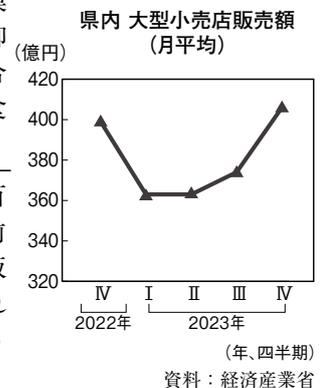
## 大型小売店

### 販売単価の上昇でスーパーは微増、百貨店は前年並みにとどまる



【1-3月期】県内の総販売額は前年をやや上回った模様。消費者の節約志向が強まる中、嗜好品への支出が抑制され、百貨店の販売額は前年を下回った模様。総合スーパーも販売数量では前年を下回ったが、主力の飲食料品の単価上昇を受け、販売額は前年をやや上回った。

【4-6月期】県内の総販売額は前年比微増の見通し。百貨店では、主力の衣料品などで需要が鈍く、販売額は前年並みにとどまる見通し。総合スーパーは、引き続き販売単価の上昇が予想され、販売数量は減少するとみられるが、販売額ベースでは前年をわずかながら上回りそうである。



【4-6月期売上高】

前年同期比 1-3月期比



操業度	需給バランス	製品在庫水準	仕入単価	販売単価	受注残
—	均衡	—	上昇	上昇	—

## 自動車販売

### 需要は堅調だが、認証不正の余波で販売台数は横ばい

【現況】



【見通し】



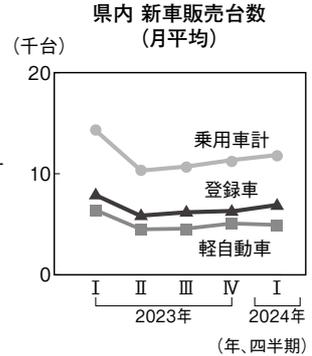
【4-6月期売上高】

前年同期比 1-3月期比



【1-3月期】県内の新車販売台数は、前年を△17.0%下回った。認証不正問題で工場が停止していたダイハツは2月下旬から段階的に稼働しているが、OEM分を含めて供給量は完全に戻っておらず納車が進まなかった。他メーカー系列ではバックオーダーを順調に消化している。

【4-6月期】県内の新車販売台数は、前年並みで推移する見通し。需要は底堅く、昨年後半に発売されたフルモデルチェンジ車の引き渡しが進む見込みで、多くの車種で納車待ちが1~2カ月に短縮する模様。ただし、認証不正問題の影響でダイハツ車は1年近く新車の投入がなく、販売台数の上積みは苦戦しそう。



資料：(一社)日本自動車販売協会連合会静岡県支部  
(一社)全国軽自動車協会連合会静岡事務所

操業度	需給バランス	製品在庫水準	仕入単価	販売単価	受注残
—	需要超過	過少	上昇	上昇	1.0~3.0ヵ月

## 物流

### 電気機械や食品関連が下支えし、輸送量は前年並み

【現況】



【見通し】



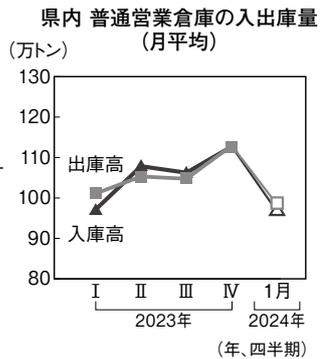
【4-6月期売上高】

前年同期比 1-3月期比



【1-3月期】1~3月の県内のトラック輸送量は、前年をやや上回って推移したとみられる。輸送用機器が堅調に推移した一方、食料品がやや減少した模様。普通倉庫の入出庫高は、主力の電気機械や紙・パルプ、飲料が堅調に推移し、前年を+3%程度上回ったとみられる。

【4-6月期】4~6月の県内のトラック輸送量は、前年並みで推移する見通し。輸送用機器は弱含みだが、食料品など消費関連は堅調に推移するとみられる。普通倉庫の入出庫高は、エアコンの出荷シーズンを迎える電気機械に期待でき、前年を若干上回って推移する見通し。2024年問題を踏まえ、価格改定の進展が期待される。



資料：静岡県倉庫協会

操業度	需給バランス	製品在庫水準	燃料価格	サービス単価	受注残
89~80%	均衡	—	上昇	上昇	—

## 情報サービス

### システム開発受注が好調な中、IT人材不足が重石

【現況】



【見通し】



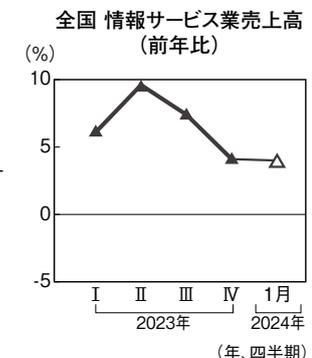
【4-6月期売上高】

前年同期比 1-3月期比



【1-3月期】全国および県内の売上高は、前年をやや上回って推移した模様。物価や人件費の上昇で企業業績の先行き不安が強まる中でもデジタル化需要は底堅く、システム開発受注が拡大した。県内も、県内外の大手・中堅企業の案件を中心に、安定した受注環境が続いた。

【4-6月期】全国および県内の売上高は、前年をやや上回って推移する見通し。新年度は、あらゆる分野でIT投資への予算拡大が見込まれ、売上高の拡大基調は揺るがない。ただし、県内は、首都圏と比較して開発リソースであるIT人材の確保に一段と苦戦するとみられ、人手不足が成長の足かせになる懸念がある。



資料：経済産業省  
「特定サービス産業動態統計調査」

操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	サービス価格	受注残
90%以上	需要超過	—	—	横ばい	1.0~3.0ヵ月

## 人材派遣

### 観光・小売関連は底堅く推移、一般事務需要も増加

【現況】



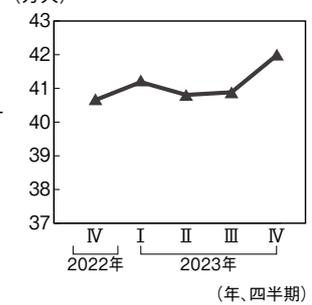
【見通し】



【1-3月期】県内の派遣社員の実稼働者総数は、前年を若干上回った模様。製造業関連については前年を下回って推移したものの、インバウンド需要が追い風となって、観光関連の接客、サービスといった業務のニーズが拡大した。

【4-6月期】県内の派遣社員の実稼働者総数は、引き続き底堅く推移する見込み。製造業は弱含みの推移が見込まれる一方、観光・小売関連は底堅く推移する模様。金融機関では、店舗の統廃合や新NISA制度の開始などを受けて、インターネット対応やコールセンター関連の人員を充実させており、一般事務関連も増加する見通し。

全国 派遣社員の実稼働者数 (月平均)



資料：(一社)日本人材派遣協会

【4-6月期売上高】

前年同期比 1-3月期比



稼働率	需給バランス	製品在庫水準	派遣原価	派遣単価	受注残
89~80%	均衡	—	上昇	上昇	—

## 観光・レジャー

### 浜名湖花博の集客に期待がかかるが、大幅増には至らず

【現況】



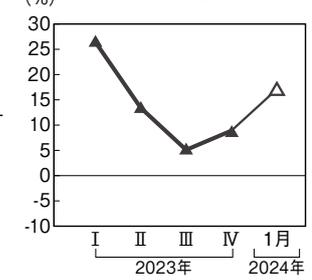
【見通し】



【1-3月期】県内主要旅館の総売上高は、前年を上回ったとみられる。国内旅行需要の回復基調が続き、原材料費や人件費の転嫁を図った観光施設でも、利用者数は維持されている模様。なお、元日に発生した能登半島地震による、県内観光業界への影響は限定的だった。

【4-6月期】県内主要旅館の売上高は、前年水準をやや上回る見通し。浜名湖花博2024の集客に期待がかかるが、一方で、昨年の大河ドラマ効果のはく落や、県外の大規模テーマパークで新エリアの開業やイベント拡充が続くほか、北陸地域への追加支援施策も予想されるため、県内観光客数の大幅な増加は見込みにくい。

県内 宿泊者数 (前年比)



資料：観光庁

【4-6月期売上高】

前年同期比 1-3月期比



稼働率	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	サービス単価	受注残
79~70%	均衡	—	上昇	上昇	—

## 外食

### 歓迎会・イベントの正常化や公的支援により、外食気運が高まる

【現況】



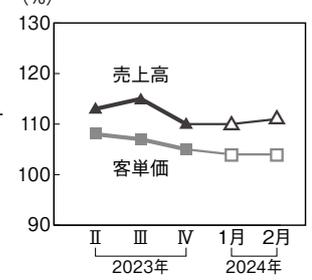
【見通し】



【1-3月期】全国および県内の主要外食店の売上高は、前年を上回ったとみられる。気候に恵まれ、営業日数も昨年より多いなど、好条件が揃い来客数が増加。また、昨年からの値上げや高価格帯の季節メニューが好調で客単価も上昇し、売上高の伸長に寄与した。

【4-6月期】全国および県内の主要外食店の売上高は、前年をやや上回る見通し。物価高は続いているが、賃上げが外食需要を後押しするとみられる。コロナ禍で控えられていた歓迎会や、イベント規模の正常化に加え、一部市町によるプレミアム商品券などが外食気運を盛り上げるとみられる。

全国 外食売上高・客単価 (前年比)



資料：(一社)日本フードサービス協会

【4-6月期売上高】

前年同期比 1-3月期比



操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	販売単価	受注残
—	均衡	—	横ばい	上昇	—

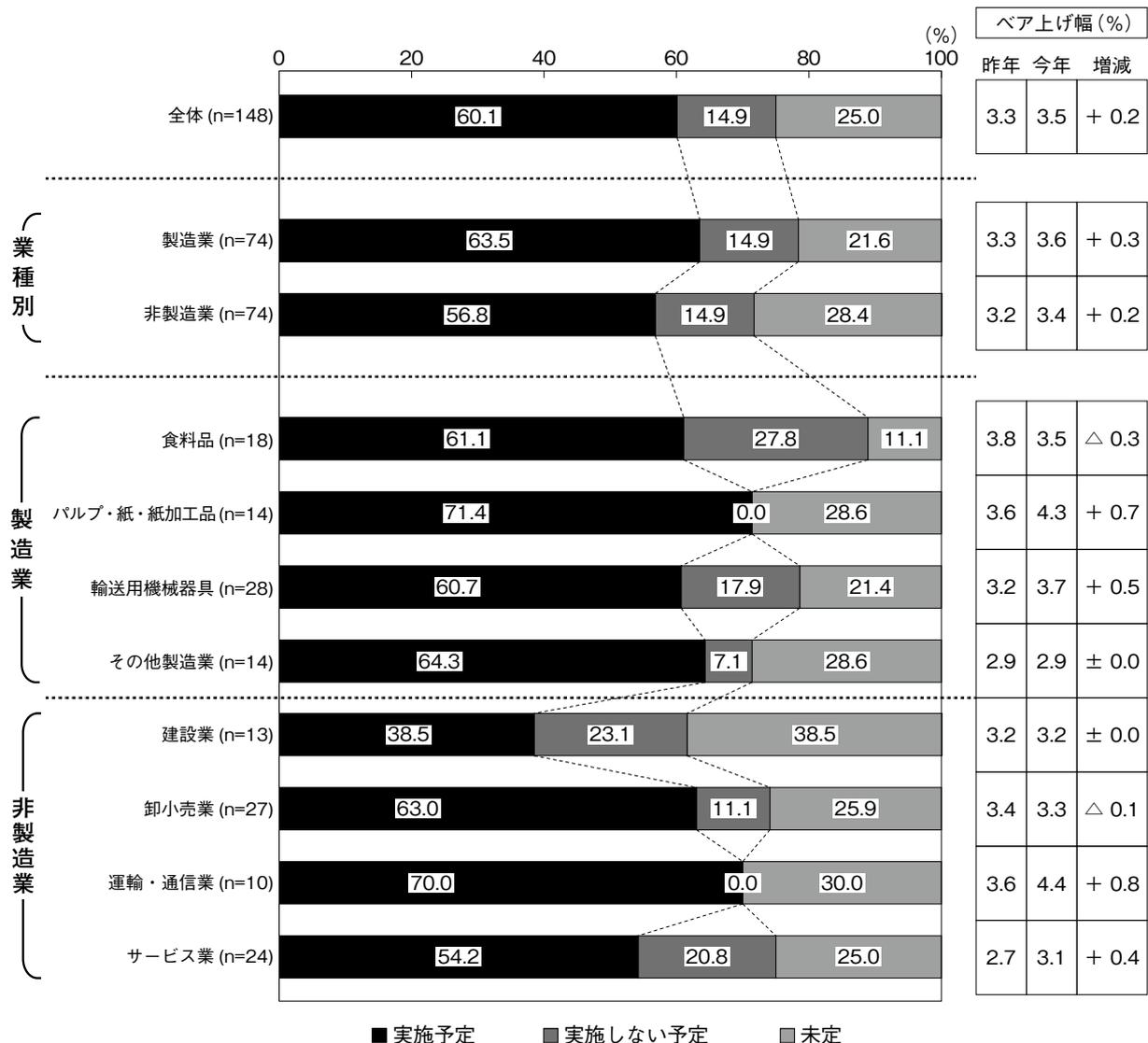
特別調査 県内企業における賃上げの実施状況

### 6割がベアを実施予定、上げ幅の平均は3.5%

県内企業に、今年度におけるベースアップの実施状況を尋ねたところ、「実施予定」との回答が60.1%と6割を占めた（図表）。そのうち8割強の企業では、昨年から2年連続でベースアップを実施しているほか、現状は「未定」（25.0%）と回答した企業でも「昨年度に実施済み」との回答が7割を超えるなど、賃上げの動きは県内でも着実に広がりつつある様子がうかがえる。

ベースアップの上げ幅については、全体平均は3.5%（前年比+0.2ポイント）で、業種別にみると、2024年問題への対応が喫緊の課題である“運輸・通信業”で4.4%（同+0.8ポイント）、昨年から業界全体で価格改定に取り組む“パルプ・紙・紙加工品”が4.3%（同+0.7ポイント）と高いのが目立つ。

図表 今年度における賃上げ（ベースアップ）の実施状況



調査要領：調査時点2024年3月、調査対象企業590社、回答社数148社、有効回答率25.1%